

新日本歌人協会 九州・山口近県集会在阿蘇 実行委員会新聞

2013年2月1日号

電子メール
ohataya@gmail.com

■ 素晴らしいロケーションで

今回の近県集会は、雄大な阿蘇を舞台に、参加したすべての方々がゆったりとした気持ちで短歌を満喫してもらうために、実行委員会一同、精一杯準備にあたっています。

熊本市支部で実行委員会を構成して近県集會に取り組むのは今回が初めてです。実行委員会は、毎月開いている定例歌会に集う十数名で構成し、前支部長の國宗黎さんが実行委員長をつとめます。

■ 「現代短歌の明と暗」記念講演

この集會のいち押しは、記念講演会です。現代を生きる私たち歌人が直面している課題を正面積え、さらなる可能性と展望を模索する内容となっています。講師は、熊本県歌人協会会長の松下紘一郎さんです。地方を拠点とする私たちですが、歌人が置かれた普遍的な立ち位置に違いはありません。

■ 南阿蘇を一望できる会場

実行委員会でも最も悩んだのが会場です。熊本市内だと利便性は高いのですが、講演会と合評会を同一会場で開催する条件を満たす会場を探すのが困難ということで、南阿蘇に決めました。南阿蘇はこの数年、熊本でもっとも脚光を浴び

ているリゾート型観光スポットとなっています。近くには、特産の地元産蕎麦を使った蕎麦打ち体験ができる蕎麦道場もあります。オプション参加ですが、阿蘇山吟行会も企画しています。阿蘇火口、草千里ヶ浜等、雄大な阿蘇を舞台に歌作に挑戦して下さい。

■ 近県集會ホームページ開設

ご案内の印刷物で紹介できない最新情報をホームページでお伝えします。この実行委員会ニュースもダウンロードして読むことができます。実行委員会では、メールマガジン等も活用し、迅速かつ効率の良い事務作業を模索しているところです。

■ 熊本市支部のご紹介

毎月第三日曜日の午後、定例歌会を開催しています。一名の参加で、一人あたり二首から八首の詠草を提出、無記名の詠草集から順番に参加者で鑑賞・批評していきます。二〇〇三年

一二月から現在まで、休み無く開催し、一月で一〇一回目の歌会となりました。

三名から始まった歌会も、毎年増え続け、現在は一名になり、現在は一人名に増えそうな勢いがあります。

写真＝熊本市支部の定例歌会で



紹介 熊本の歌人が詠った阿蘇 1

実行委員の寺内實さんが選んだ地元歌人の秀歌です。

(安永路子歌集・天窓) 平成二十二年

活火山阿蘇に降る雪ほのぼのと想ひ見るべく泡雪降り

内深く火を抱く山に雪降り牧場悍馬の爪も潤むか

北壁の外輪山の石にたつ長のつもりか黒羽の鴉

ばらばらと集落あるも豊かなれゆらりと道に花食ふ牛も

ゆく雲を片へにおきて火山群遠世の形いまに変わらぬ

阿蘇五岳涅槃といへば山けむり白く昇るは臍のあたりか

山煙いまなほ湧くを見つつ立つ牧馬の脚のなほ細きかな

(蒲池由之歌集・氷心) 1976年

山裾のたわみに沿ひておのづからゆるやかに巻く阿蘇谷の霧

野づかさを二つに断ちて浮きあがる草刈の線は生活の線(阿蘇 米塚)

(黒木伝松歌集) 大正一四年

秀でたる嶺より嶺をおほいゆく雲に力あり見つつ登れば

焼石の尾根をあふげばおほどかに雲を動かす天つ風かも
昔より昇りし煙いまも昇りわれら見てをるは空しきごとし

(宗不旱歌集・荔支) 昭和十五年

曇りぞら低く覆へば阿蘇冬嶺なべての山はいただきを消す

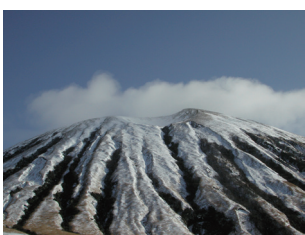
黒川の沿ひの野の径小笹鳴り吹きあぐる風は裾ふきまくる

高岳の裾野をひろみたちそろふ杉生の緑漲りて照る

ほのかなる明りとなりて北の空澄めば久住の山わだかまる

* 宗不旱

熊本に生まれ、鹿本来民で育った放浪の歌人。本名耕一郎。少年時代から文学に親しみ、窪田空穂を知り十月会に入る。短歌実作のみでなく歌論・評論・評釈にも活動した。万葉調の大らかな作風のなかに苦渋の人生と夢との交錯を歌う。世俗に徹底的に背をむけた歌人であった。歌集『筑摩鍋』『荔支』がある。阿蘇山中で昭和一七年(一九四二)行方不明となる。享年六九才。



(新日本歌人2013年2月号より二首)

うす紅の刺に晩夏の光差し薔薇の新芽は空に伸びゆく
立ち枯れと諦めいしがクレマチス双葉芽吹ける秋雨に濡れ

近県集会の実行委員長を務められる國宗黎さんは、熊本市支部の立ち上げに尽力され、前身である年金者短歌サークルの創立者でもあります。薔薇作りの名人で、自然に対する視点が鋭く、花を詠んだ作品も多くあります。いつも穏やかな表情で、歌会の雰囲気や和ませて下さいます。

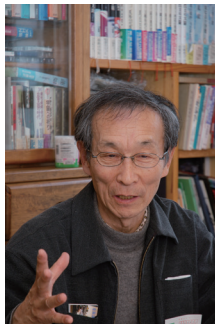


國宗黎さん

実行委員のご紹介

(文 大畑靖夫)

寺内實さん



短歌を知り尽くした、押しも押されぬ歌人です。歌歴も長く、定例歌会では、誤用や、文法の誤りも的確に指摘、心強いお師匠さんの存在です。社会の不条理を鮮明に浮かびあがらせ、かつ洗練された流れるようなリズムをもった作品は新鮮です。一泊二日の小旅行で100首、一晩に50首も作る短歌の超人です。近県集会では、実作を通して歌会をリードしてもらえないかと期待しています。

(二月定例歌会より二首)

廃業のうどん屋の間口いっばいに並ぶ自販機路地明るくす
びら配る払暁の路上に白々し七十五歳新年の息

近県集会でもっとも盛り上がるのが交流会です。が、今回はいつもと趣向を変え、短歌と正面から対峙した交流会になるように、各県代表の出し物については、共通テーマに沿った内容になるようご協力をお願いしています。

それは、「短歌」です。

朗読、輪読、映像、創作劇、歌会の紹介、表現方法も自由です。制限時間は一〇分、短歌を究め、短歌にどっぷり浸る交流会を期待しています。さて、成功するのか、企画倒れになるのか、鍵は参加された皆さんにかかっています。

自由な発想で、あなたの支部の短歌に対する意気込みを表現して下さい。

歌人のための 大交流会を模索

春宵合評会のご案内

二〇日夜

阿蘇山吟行会を企画していますが、締切時間までに提出された即詠歌の合評会を開きます。もちろん、自由参加で、参加されなかった方にも即詠会詠草集をお配りします。春の宵を惜しみ、自由闊達な歌論を繰り広げましょう。

*吟行会のバス利用については、別途貸しきりバスを用意しますので、やむなく参加費千円をいただくことにしました。ホテルの周辺の散策も可能ですので、即詠歌のみの提出も大歓迎です。

南阿蘇とは

*南阿蘇村観光協会のホームページから引用しました

「世界最大級のカルデラの真ん中に横たわる阿蘇五岳は涅槃像に例えられる美しい姿です。

その南麓に、私たちが暮らす南阿蘇村が広がっています。

ここには、清涼な水と とびつきり熱い温泉が 贅沢に湧き出ています。

日本名水百選・白川水源をはじめ

平成の名水百選・南阿蘇湧水群(村内に点在するこの水源の総称)が大地を潤しその流れを集めた白川が、田畑の広がる村の真ん中を東西にさらさらと流れゆく。

そして、湧水と同じように村のあちこちで湧く温泉は江戸の時代から人々の心とからだを癒し続けています。」というわけで、熊本で、今最も脚光を浴びているスポットです。



会場のホテルグリーンピア南阿蘇ははここです